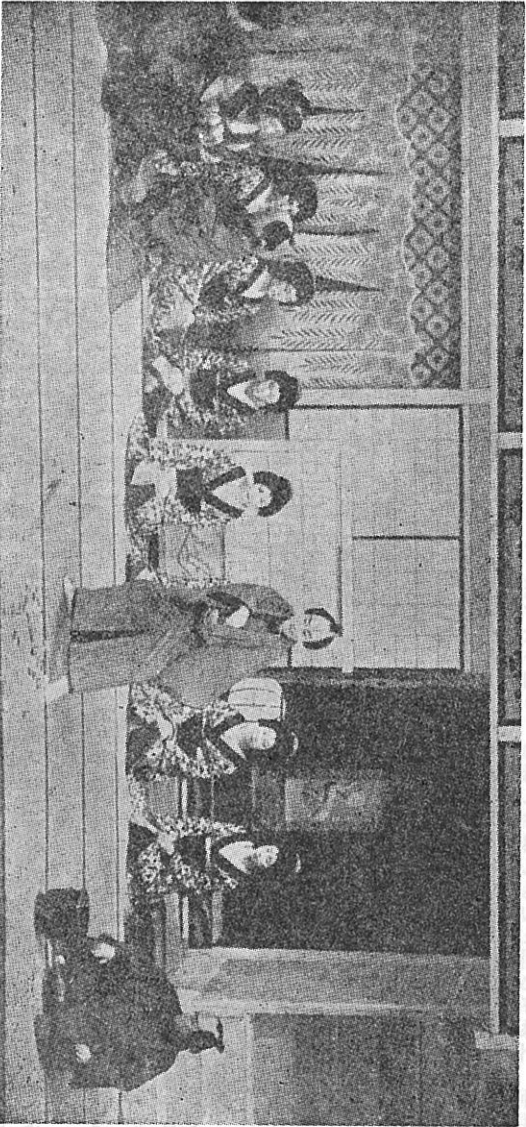


上巻の巻  
梅川冥途の飛脚



忠兵衛 梅川 冥途の飛脚

上の巻

滯標浪速に咲くやこの花の、里  
は三筋に町の名も、佐渡と越後の間  
の手を、通ふ千鳥の淡路町、龜屋の  
世繼忠兵衛、今年二十歳の上はま  
だ、四年以前に大和より、敷金持つ  
て養子分、後家妙閑の介抱ゆゑ、  
商賣巧者駄荷つもあり、江戸へも上

冥途の飛脚

**通釈** その昔、「咲くやこの花」と歌われた難波の新町の廓は、三筋に通う三筋に分かれて、大門口は瓢箪町、その左は佐渡屋町、右は越後町となっている。その佐渡と越後の間即ち廓の中へ足繁く通うのは、「通ふ千鳥の鳴く声に」と歌に詠まれた淡路島と同じ名前の淡路町の飛脚問屋、龜屋の世繼忠兵衛で、今年二十四を迎えたばかり、四年以前に、大和から敷金持って養子に來たのであるが、後家妙閑の仕込みだけあって、商売上手、駄荷のわりふりにも抜目なく、三度笠着て江戸へも三度上下した。茶の湯・俳諧・碁・雙六の心得もあり、延紙に書く手跡にかどのないように、円満な人柄